

平成 28 年度 八王子市保健所運営会議議事概要

1. 日時 平成 29 年 2 月 16 日(木) 午後 1 時 30 分～3 時

2. 場所 八王子市保健所 別館 1 階

3. 参加者名簿

	氏名	所属・役職
1	伊藤 裕司	市議会議員
2	五間 浩	市議会議員
3	青柳 有希子	市議会議員
4	八木下 輝一	市議会議員
5	梶原 幸子	市議会議員
6	石塚 太一	八王子市医師会 副会長
7	菊田 高行	東京都八南歯科医師会 副会長
8	森田 二三江	八王子薬剤師会 理事
9	河合 博明	東京都獣医師会支部 支部長
10	金澤 町子	八南助産師会 会長
11	野崎 多枝子	わかくさ家族の会 理事
12	花上 均	東京都八王子環境衛生協会 会長
13	峯尾 誠	東京都八王子食品衛生協会 会長代行
14	尾川 朋治	八王子市社会福祉協議会 会長

4. 議事

- (1) 予防接種の取り組みについて
- (2) 食中毒発生対応状況について
- (3) 精神障害者早期訪問支援事業について
- (4) その他

【質疑応答】

質問 1	同時接種とそうでないところについて行政的にはどちらがいいのか。
回答 1	同時接種をどれだけのパーセントで行っているかの具体的な数字は持っていませんが、半数いくかどうかです。小児科専門では、同時接種の実施率は高いです。副反応があった時に、ワクチンの判別が不明ですが、同時接種は親の負担を減らします。しかし、子どもにとっては、両肩、諸外国ではお尻にも打つことになるので大変であります。 同時接種の件は、小児科の専門医ではほぼ普通に行われています。混合ワクチンをどれだけ開発できるか、4 種混合とヒブと B 型肝炎は、ほとんど接種期間と回数が同じなので、それを 6 種混合のワクチンにすれば一回で済むので、そのワクチンの開発はされています。 副反応の対応ですが、法定接種の注射であればどの注射かわからなくても判断はしますので、同時接種がだめということはありません。

質問 2	親御さんが同時接種に対して拒否反応することや予防接種を受けさせない考えの親への対応はどうすればいいか。
回答 2	拒否する親御さんの件は、予防接種は努力義務なので接種しない方に罰則はないですが、公衆衛生的にはワクチンは 95%以上の接種率があれば、その病気の流行を防ぐことができます。保健所では95%以上の接種率を目指しています。接種しない方がある意味、フリーライダーであり、他の人が接種しているから、流行しないため雇らないということになっています。万が一流行った時に雇ったら大変なことになります。 以前、北区の小学 5 年生の男の子が麻疹で亡くなりました。その子は予防接種を打っていなくて校長先生たちは麻疹で亡くなるとは思わなかったとおっしゃっていて、それ以来就学時健診の時はしっかり確認してもらえるようになりました。未接種の方は雇ってしまった時のリスクを自分で背負わないといけないので、私たちは予防接種を勧めていきたいです。

質問 3	一時ストップしていた日本脳炎は、20 歳まで期間がのびて接種できるようになりましたが、全然受けていない方は、接種間隔を半年あけなければならない回を含め 4 回の接種があるので、その対応は何かあるか。
回答 3	日本脳炎ですが、ワクチンの副作用があり平成 17 年 6 月に積極的勧奨が中止になり、その関係で未接種の方は、20 歳までに接種できる特例があります。未接種の高校 3 年生に市から通知を出し、接種を勧めています。18 歳なので 20 歳までの期間に 4 回受けられるようご案内しています。

質問 4	麻疹と風疹の混合ワクチンは、少し前に麻疹が出てしまったから麻疹の予防接種をしてほしいという要望が多く、一時ワクチンの不足がありましたが現在どのような状況か。
回答 4	MR（麻疹風疹混合ワクチン）ですが、昨年、関西地方での流行を受け大人も接種することで、9 月頃ワクチンが不足しました。市内の医療機関にワクチンの状況の確認をしたところ、今現在は不足なく必要な本数が供給されていました。就学まであと少しですが、第 2 期を受けられていないお子さんには対象年度までの接種を勧めています。

質問 5	モバイルサイトの件でメールは受信できていますが、実費のロタウイルスが希望で、ロタウイルスの予定を入れると、子宮頸がんのヒブワクチンの希望を聞かれ、ロタウイルスだけを希望したい時はどうすればよいか、サイトの改善をしてほしい。
回答 5	子宮頸がんの件ですが、お子さんの生年月日を入れるとスケジュールを設定する前の段階でありまして、任意の予防接種の中で希望するものを選ぶロタテックスとロタリックスのどちらかを選び、定期接種の子宮頸がんワクチン 2 種類どちらかを選び、すべてのスケジュールが設定される仕組みになっています。サイトの改善の件は、こちらで調整していきたいと考えています。 (サイトについては、後日修正済み。)

質問 6	予防接種の有効性や期間はどれくらいか。また、麻疹の有効性は一生続くのか、ワクチンの有効性がきれた後の市としての施策や見通しはあるか。
回答 6	ワクチンには不活化ワクチンと生ワクチンがあります。人間は規格品ではないので一人ひとり反応が違います。かけ合わせの中でのお話として聞いてください。 百日咳ワクチンを接種したのに罹るという事は、ないことではありません。インフルエンザワクチンも接種しても感染はしますし、感染は防げないが重症化は防げるというように、公衆衛生では疫学という言葉を使っています。全員を保障するとはっていないので、何割以上は大丈夫ということになっています。生ワクチンは基本的には生きたウイルスを入れますので終生免疫がつくことが多いです。 現在は昔に比べてきれいになり、昔は麻疹のワクチンを打ったあと、流行すると罹りました。ワクチン免疫のおかげで発症しないことをブースターといいまして、ワクチンの効果をあげます。罹るとワクチンの効果を思い出し、予防接種を再度打ったような状態になります。ブースターがかかるのが少なくなってきました。 例えば、麻疹は日本国内の土着株がなくなったので輸入株になってきています。ワクチンをはじめた水疱瘡に関してはすごく効いてしまい、現在水疱瘡の流行がないので、これは実は大人にとって問題です。大人も子供が流行っていると罹っていました。そうすると水疱瘡の免疫があがっていましたが、それがなくなり、同じウイルスがおこす帯状疱疹が増えてきている話もあります。大人にも帯状疱疹予防で水疱瘡ワクチンを打つという方法もあります。 世の中がきれいになると逆にそのようなことも起こり、将来どうなるかははっきりとしたことは言えません。その都度、専門家の判断がなされていくのではないかと思います。100%確実なワクチンはないです。今後も情報提供には努めさせていただきます。

質問 7	地域の餅つき大会で、つきたてのお餅をみんなで食べる餅つきの指導、準備、対応を今後どうしていくか、今後運営できるのか。
回答 7	当該事件は、一人からノロウイルスが検出されました。餅を返していた人から出ていて、この方は2週間ほど前に腹痛を起こしていました。従事者の衛生面が重要であり、2週間ほどさかのぼり、腹痛があった方、熱があった方、胃腸炎などの症状があった方など有症である方は従事をやめておき、手洗いの徹底、マスクや帽子の着用、可能であれば手袋を着用して、防護服を着て行うのが良いです。

質問 8	小学校・中学校などの餅つき大会での指導はされているか。
回答 8	教育委員会から文書が出ていて、保健所がその文書の内容を点検します。団体そのものを特定できていないので、保健所からは特に文書は出していませんがホームページでは掲載しています。

質問 9	大学の学園祭の場合、模擬店の指導はどのようにしているのか。
回答 9	講習会を実施し、内容の書類審査も行っています。

質問 10	食中毒の原因物質がわからないときはどうするのか。
回答 10	長い間原因物質がわからないまま営業停止処分をしているところもあります。罰として営業停止処分をしているわけではないので、なにかあったことは確かなので、消毒をして再発を防止しています。食中毒調査は、客観的に情報を積み重ねて特定し、その改善、指導をしているのでグレーゾーンのときは処分ではなく、指導をしています。有症苦情、相談対応は全てきちんと対応しています。

質問 11	八王子市は食中毒が多いのはなぜか。
回答 11	政令市である町田市は食中毒発生が2件、23区の保健所は港区12件、千代田区11件、新宿区10件、台東区9件、八王子市は施設としては少なくともはありません。今紹介した区に比べたら施設数は少ないです。決して監視員が手を抜いてはいないのですが、多いのが事実です。 このことを重くふまえ、自主管理を徹底し、市としては情報提供に努めたいです。6年間の許可で講習会・講演会に参加しない施設もあるので、その対策やできるだけ従事者に衛生思想を持ってもらえるようにしていきたいです。

質問 12	産後は、精神が変化する時期で、産後の鬱・緊急の精神疾患などで相談する際に、保健センターに相談したり、保健センターを通じ精神科を受診したり、どこに繋がっていくのがいいか。
回答 12	八王子市の場合、ネウボラという事業があり、気になる妊婦さんは保健師が産後までフォローしていけるシステムとなっています。産後の赤ちゃんは、全数訪問となっていて、早期の訪問は保健福祉センターで対応しています。産科との連携がとれているので、産科からの連絡もあります。できる範囲の中で保健師が支援する形となっています。情報が入ると、保健師の支援でお母さんの不安をとっています。 時々、保健所に多問題家族の相談があり、お母さんの鬱だけではなくて、上のお子さん、おじいちゃんおばあちゃんのことでも相談がある場合は、一緒に連携をとっています。産後鬱のお母さんだけが支援対象の場合は、今のところ保健福祉センターの保健師がカバーしていくことが多いです。

質問 13	市民から相談があると、いつ頃、何人で対応してくれるのか。ごみ屋敷や、家族でひきこもっているような難しい問題はどうか解決していけばいいのか。 市でコミュニティーソーシャルワーカーも配置されているが、専門知識を持つ複数の方で対応していくのが一番効果的であると思うが、連携がどのようにとられているのか。
回答 13	人員は、保健師が 10 名、精神保健福祉士は 5 病院から 1 名ずつです。 早い方は翌日には訪問しています。周りの方からのご相談ですと本人のところに来てほしいわけではなく、まず家族や近所の相談を受けてほしいという事も多いので、一度そこでお話を聞いてご本人の了承を取れた方は、なるべく早く訪問に行っています。ご本人が了承していない場合は、ご家族の健康相談で訪問したことにして、ご本人が隣の部屋にいて、確認ができる方もいます。ご本人が出てきてくれることもあれば、顔を見せてくれないこともあります。ごみ屋敷の方など、長く関係をつくっていかねば、本人にたどり着けない場合もありますので時間をかけて何度も訪問に行っています。 いろいろな関係者をネットワークの中に組み込んで支援するのも私たちの大事な仕事なので、福祉関係者の方につながるようにしたり、制度を使って医療につなげるようにしたりして取り組んでいます。何度訪問を重ねても解決には至らない方も多いので、関係機関との連携を図るようにしています。

意見	ごみ屋敷で、近隣の方がとても迷惑しているという現状があります。ハード面、ソフト面の対策が必要だと考えます。福祉関係のサポートがとても大事なので、関係機関と連携しながら、少しでも良くなるようにご協力をお願いしたい。 ごみ屋敷は、自分で自分を虐待する・放置するという概念のセルフネグレクトとして考えるようになってきています。片付けてもまた自分でゴミを集めてしまうので、時間はかかりますが、ご本人の心配・不安を取り除きながら対応はしていきたいです。
----	---

質問 14	保健所閉庁時間の電話相談はどうするのか。
回答 14	自殺や他人に暴力を加えること、食中毒などでも緊急事態があるので警察との連携も重要になります。保健所の閉庁時は、東京都全体で夜間受付のできる「ひまわり」というものがあり、そちらから担当者にまわる仕組みはできています。警察から警察間通報、精神科医の診断を受けることもあります。ただ、どんな方もある日突然暴れだすことはなく、徐々に具合が悪くなり、自覚的には追い詰められ、それを防衛しようとして起こすクライシスがあるので、具合が悪くなる前に、ご相談して頂けるようにしようというものです。予防的取組なため、時間的余裕があるので、昼間の対応でいけるのではないかと考えています。24 時間 365 日対応できるのが理想ですが、10 人と少ないので今の段階ではそれは難しい現状ですが、問題意識は持っています。緊急の時は警察が入り、措置入院というものがあります。この事業は、事前の対策なので早期訪問支援事業になっています。

質問 15	社会福祉協議会では民生委員さんなどから、一人暮らしで認知症のお年寄りや、児童の事などいろいろな相談を受けていて、この事業はなんでも相談できる窓口でいいか。
回答 15	なんでも保健師が相談にのります。社会福祉協議会さんには訪問の同行や、ボランティアにも協力して頂いているので、今後も相談に対応します。

質問 16	美容組合では認知症のサポート(オレンジリング) 講習も毎年 5、6 回やっていて、認知症と精神障害とは違うとは言え、周りや社会が見守る目は近いものがあります。いろいろな情報や利害関係者からの相談ではなく、異常のみられる方の周囲の方に、早期にこの事業の存在を知らせておくことはできると思うので、社会に危害が及ぶ前に、周りの方や市民の協力があれば、十分な対処をできるようにすれば防げるのではないかと。
回答 16	町場の人の目が救うこともあると思うので、なにかあれば保健所への相談をアドバイスしていただきたい。

意見	東京都で鳥インフルエンザ A 型が出て、高病原性なのか検査しています。学校で飼育している動物は、すぐに殺処分という話になってしまうので東京都獣医師会では翌日にプレスリリースや学校へも通知を出しました。マスコミが対応すると騒ぎになってしまっていて保護者から心配の声が寄せられています。 防災対策で動物の同行避難についても話を進めています。
補足	鳥インフルエンザについては足立区で死んだ尾長鴨から H5N6 が出ました。鳥にとっての高病原性なので、まだまだ人にうつるということはありません。野生動物で渡る鴨なので八王子にくる可能性もあります。足立区生物園は展示をやめたようです。学校で鳥を飼っていると大騒ぎになるので、獣医師会でプレスして頂いたという事でした。 動物行政も中核市になってから大きく変わっていますので、また来年度ご報告ができればと思っています。

質問 17	薬物を使用していそうな人がいたらどうすればよいか。また、保健所に相談したらどのような対応があるか。
回答 17	保健所では、内容と年齢等により、予約制の精神科医の相談もあり案内しています。長期に支援が必要な場合は保健師が訪問などで相談対応できます。多摩総合精神保健福祉センターでは家族教室というものがありますので、依存症になる前の対応があります。依存症に関しては、I R 法(カジノ法)でもギャンブル依存の話が出て、国の政策としても都道府県に一か所は依存症のセンターを作るという案がでています。アルコールをはじめ、日本は依存症が多い国であり、依存症対策が遅れているので対策が強化される中で、保健所も対応していきたいです。